

金沢大学 融合学域先導学類

学生の確保の見通し等を記載した書類

国立大学法人 金沢大学

目 次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

| | |
|-------------------------|---|
| ① 学生の確保の見通し | 1 |
| ア) 定員充足の見込み | 1 |
| イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要 | 2 |
| ウ) 学生納付金の設定の考え方 | 5 |
| ② 学生確保に向けた具体的な取組状況 | 5 |

(2) 人材需要の動向等社会の要請

| | |
|---|---|
| ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要） | 6 |
| ② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの 客観的な根拠 | 6 |

| | |
|------|---|
| 資料目次 | 8 |
|------|---|

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア) 定員充足の見込み

金沢大学（以下、「本学」と表記。）は、社会の変容や科学の進展を的確に踏まえた上で、表出する複層的な諸課題に関し、人間科学・社会科学・自然科学等の多様な知見を活用しながらその解決に取り組むとともに、新たな「知」を社会へ展開する意欲と素養を身に付けた社会変革を先導する人材の養成を目的として、既存の学域の知見を結集し、学士課程において融合学域先導学類（以下、「本学類」と表記。）を設置することとしている。その上で、社会に対し、毎年度こうした人材を着実に輩出していく使命があると考えており、本学類の入学定員については、以下に述べる同学類における課程編成等の特殊性を踏まえ、次のように考えた。

本学類の課程編成については、人文科学、社会科学、自然科学等、特定の学問分野にとらわれない多分野に渡る専門科目を配置する課題解決型の課程編成としており、学生の研究課題設定によって、その課題解決に関する履修科目は、学生個人により異なるものと考えている。そのため、履修科目の選定に当たっては、学生個人の趣味趣向によらず、その課題解決に向けて真に必要な科目を学生と教員とが協働して選定するオーダーメイド型の履修形態としている。さらに、アントレプレナーシップの醸成を見据えた演習科目の実践などについては、学生に対するきめ細かなサポートが必要であるため、4年次までに学生一人当たり最大5名の履修・指導アドバイザーを配置するなど、オーダーメイド型の指導体制を構築することとしている。

本学類における社会変革を先導する人材の養成は、基本的には、日本の高等学校卒業生を対象とするものの、世界規模で社会変動が激しい現代社会においては、後述するアンケート結果からもそうした人材を求める海外（留学生）や企業（社会人）からのニーズは少なからず存在する。本学類においては、それらの求めに応じるべく、1年次入学定員に社会人枠及び留学生枠（地域定着留学生）を、3年次編入学定員に社会人枠を設け、その結果として、グローバルな観点で課題探求に取り組むことができる多様性のある教育環境が構築される。

また、本学類の教育体制を中心となり支える専任教員については、学内の限られた人的資源を適正に再配分した結果、23名を配置することとした。

これら上述した本学類における養成する人材、課程編成、教育方法、教育環境等の特殊性のほか、他学域の入学定員や専任教員数、同学類へ配分可能な専任教員数等を鑑みたところ、本学類の実施可能な入学定員については、以下の表1のとおり、1年次55名、3年次編入学25名の入学定員が適正規模であると判断した。なお、入学定員の内数として設定する留学生及び社会人に係る人数については、以下に示すそれぞれの確保に向けた取組及び客観的なデータとともに後述する。

表1 入学定員

| 学類 | 区分 | 入学定員 | |
|----------|------------|------|-------------------------|
| 融合学域先導学類 | 1年次 | 55名 | うち、社会人若干名 うち、留学生5名程度 |
| | 3年次 編入学 | 25名 | うち、留学生・社会人10名程度 |

この入学定員の設定に当たり、学生の確保の見通しを明らかにするため、『新学域構想へのアンケート』を以下のとおり実施した。

①2019年8月（【資料1】参照）

対象：本学開催「キャンパスビジット」に参加した高校2年次の生徒
※令和3年度入学予定者を想定

②2019年2月～2019年3月（【資料2】参照）

対象：本学への志願者が多い全国の高校140校の高校1年次の生徒
※令和3年度入学予定者を想定

その結果、本学類において設定した1年次入学定員（社会人、留学生を除く。）については、適切な選抜がなされた上で、安定的に確保することが可能であり、十分な定員充足が見込まれると判断される。

イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

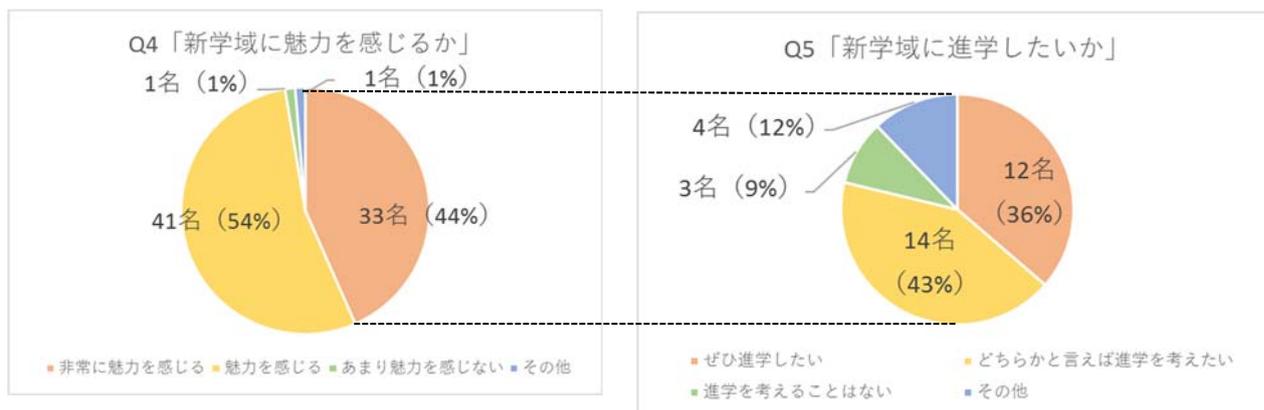
○一年次

高校卒業生

上述の「ア 定員充足の見込み」に示した、『新学域構想へのアンケート』による調査の結果、図1、図2のとおり回答を得た。

令和元年8月8日に開催した本学の「キャンパスビジット」において本学類の構想を説明するブースを設け、アンケートを実施した。本来キャンパスビジットは、既存の学類毎にプログラムを設け、入学後の授業や実験等を体験するものであるが、その時間の合間を縫い、引率の高校教師や保護者を中心に約250名がブースを訪れ、「生徒に進学をすすめたい」等の肯定的な意見を得ることが出来た。また、ブースを訪れた学生のうち、実際に令和3年度に進学の対象となる学生76名を対象に、本学類における養成する人材像、課程編成、想定される卒業後の就職先などを示した上で、本学類に関するアンケートを実施したところ以下の回答を得た。

図 1

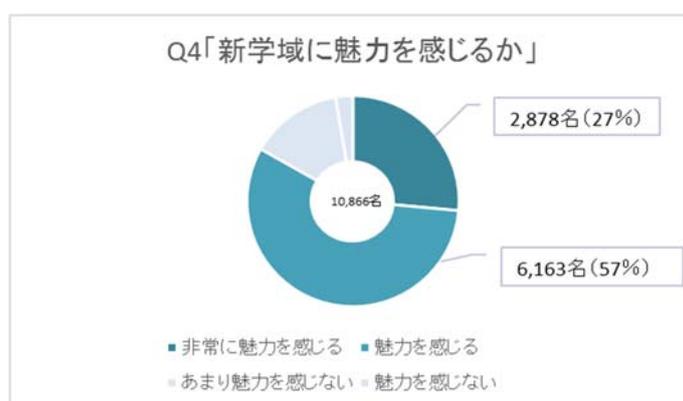


その結果、本学類に「非常に魅力を感じる」と回答した学生は 33 名（44％）であった。また、この「非常に魅力を感じる」と回答した学生のうち、12 名（36％）から「ぜひ進学したい」と進学の意思を示す回答が得られた。

北陸地域を中心とした高校生が参加した本キャンパスビジットにおいて、本学類に 76 名の学生が興味を示し本学類のブースを訪れており、アンケートを実施した結果、12 名（アンケート全体の約 16％）の学生が進学の意思を示したことから、全国の高校生を対象として実施した大規模なアンケートにおいて本学域に興味を示した学生の中にも同様に、本学域への進学を希望する学生が内在することが考えられる。

平成 31 年 2～3 月の期間において、本学への志願者が多い全国の高校 140 校の高校 1 年次の生徒（令和 3 年度入学予定者を想定）約 11,000 名を対象に、本学類における養成する人材像、課程編成、想定される卒業後の就職先などを示した上で、本学類に関するアンケートを行ったところ、以下のとおり、「非常に魅力を感じる」または「魅力を感じる」と回答した学生は 9,041 名（84％）であった。

図 2



上記アンケートにおいて、非常に多くの学生が本学類に興味を示しているところではあるが、「非常に魅力を感じる」または「魅力を感じる」と回答した学生のうち、本学類に興味を持つ者を「非常に魅力を感じる」と回答した者 2,878 名に限定したと上で、令和 2 年 8 月のキャンパスビジットにおけるアンケート結果を基に、本学類に興味のある者のうち約 16％が進学したいと考えていると仮定しても、内在する本学類への進学希望者は約 460 名程度にのぼると考え

られる。

さらに、図2において「非常に魅力を感じる」と回答した者2,878名のうち、本学への進学者が特に多い北陸3県の学生が1,144名となっており、同様に内在する本学類への進学希望者を算出すると、北陸3県だけでも約180名程度にのぼると考えられる。

この結果から、入学定員を大きく設定することも考えられるが、本学類における養成する人材、課程編成、教育方法等の特殊性や学生個人への手厚い学習指導体制を構築するために配置する専任教員数等に鑑み、1年次入学定員を55名（うち、留学生5名程度）に設定する。

留学生

本学類においては、5名程度の留学生の入学を想定している。

これらの入学者は、主として本学と学生交流協定を締結している大学の附属高校や当該大学の学士課程の学生を想定しており、協定を締結している大学のうち、マヒドン大学附属高校（タイ）、キングモンクット工科大学附属高校（タイ）、国立政治大学（台湾）、国立台湾大学（台湾）、ベトナム国家大学ホーチミン市工科大学（ベトナム）に聞き込み調査を行ったところ、本学域・学類の設置の趣旨、教育課程等に魅力を感じ、それぞれ2名程度の学生を派遣する旨の回答を得ている。また、回答を得たもののうち、半数程度が3年次の編入学を希望する旨の回答も得ている。

これに加え、昨年タイで行われた日本留学・就学フェアにおいては、将来の卒業後の日本での就職を視野に入れた本学類の特徴等を紹介したところ、27名の現地高校生が興味を示している。さらに、本学においては、特に渡日熱の高い台湾、ベトナム等を中心として、現地でのリクルーティングを引き続き行うとともに、徹底した渡日前教育を行うための教員を配置することとしている。

これらのことから、1年次において入学を想定している5名程度の留学生については、現時点での状況を加味すれば、十分に充足が見込まれると判断する。

社会人

本学類においては、1年次に若干名の社会人の入学を想定している。これは、現在又は過去に職業を有する継続・就業・企業希望者を対象としたものであり、本人の同意を得て勤務先と意見交換を行い、学修計画に反映させる等、「企業からの派遣」の意味合いも強く持つものである。

こうした社会人のニーズを把握するため、以下のアンケート調査を行った。

③2019年2月～2019年3月【資料3】参照

対象：求人・求職において本学と関連のある企業等370社（産業分類で42種）

回答：330社

| |
|---|
| 新学域構想 高評価 98%（非常に魅力を感じる 48%、魅力を感じる 50%） |
| 学生として雇用者の派遣 高評価 62%（派遣を考えたい 28% 条件付き 34%） |

アンケートにより回答のあった330社の企業のうち、学生として雇用者を派遣することを「考えたい」と回答した企業は92社（全体の28%）であった。

上記アンケート結果から、社会人の1年次入学定員若干名に対し、入学定員を大きく上回る

企業ニーズが窺われ、設定した入学定員は十分に充足が見込まれると判断する。

○編入学

本学類においては、3年次編入学定員として25名を設け、うち、高専・短大卒・大学卒者等として15名程度、留学生及び社会人として10名程度の入学を想定している。

編入学のニーズを把握するため、編入学に関する以下のアンケート調査を行った。

④2020年3月（【資料4】参照）

対象：本学類のWebサイト訪問者のうち、高校2年次、高専2年次及び社会人

※令和5年度編入学予定者を想定

新学域構想 高評価 26名（非常に魅力を感じる 13名、魅力を感じる 13名）

編入学したい 26名：（高校2年次9名、高専2年次9名、社会人8名）

上記アンケート結果から、本学類のWebサイトを訪問した高校・高専2年次に加え、社会人等からも編入学のニーズがあることが窺われ、また、前述のとおり本学と学生交流協定を締結している大学の附属高校や当該大学の学士課程の学生5名程度が入学を希望していることから、設定した編入学定員は十分に充足することが見込まれる。

ウ) 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、国立大学等の授業料その他の費用に関する省令（平成16年3月31日文科科学省令第16号）に基づき、同省令に掲げる授業料、入学料及び検定料の額を標準とし、本学において設定する。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学では、学生募集の専門部署として入試課を、広報の専門部署として広報室を設置し、全学の学生募集・広報活動を統括しているほか、個々の学域・学類においても委員会を設置し、広報活動を展開している。

なお、今後の広報活動として、入試課及び広報室の下、対象者のニーズ等を踏まえた広報行事を実施する予定であるほか、学生募集活動を担う学域独自の委員会を設置し、学生募集・広報活動に用いるパンフレットの作成や、Webサイトを構築することとしている。さらに、同委員会委員が北陸三県の高等学校へ出向き、本学類に関する説明を行う他、例年8月に開催している高校2年生以上を対象としたキャンパスビジットにおいて本学類の説明を行うことを予定しており、その認知度を高めるための取組みを行うこととしている。

さらに、留学生の確保に向け、本学と学生交流協定を締結している各大学への案内と周知を行うほか、高校生のリクルーティングと渡日前指導を行う教員を配置し、その確保に努める。

以上のとおり、本学類に関する広報活動を丁寧に行うことにより、十分な受験生及び入学学生の確保が見込まれると判断される。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)

我が国の国力の停滞と、それを打破すべく提唱された「超スマート社会=Society5.0」の実現に向けた人材育成を、急速に推し進めなければならない事態が現在世界規模で巻き起きている。新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」という。）の流行によって、世界規模で経済、社会、国際政治経済秩序、さらには人々の行動・意識・価値観にまで及ぶ急速な変容がみられることとなり、新たな世界「ニューノーマル」への移行が現実視されるようになった。2020年7月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2020」においても、「世界が今、大きな変化に直面する中で、我が国は新たな時代を見据え未来を先取りする社会変革に取り組まねばならない。さもなくば将来にわたり日本が世界から取り残されて埋没してしまいかねないとの切迫した危機意識を共有し、政府・企業・個人等それぞれの立場で変革への取組を始めることが不可欠である。」と述べられており、「新たな日常」の実現に向けた社会変革の推進力となる人材が従来に増して必要となっている。また、「科学技術・イノベーションを加速し、生産性向上を通じた経済成長を実現する」とした、「第5期科学技術基本計画（2016年1月閣議決定）」では現代社会を経済・社会の構造が日々大きく変化する「大変革時代」と位置付けたが、感染症の世界的な影響によって、当時想定された変革を遙かに上回る、社会構造そのものや個人の行動・意識にまで及ぶ、広範囲な変革が不可欠な状況となっている。新たな時代に向けた社会変革を推進し、先導する人材の養成が急務である。

こうした背景を踏まえ、本学では課題設定・解決力や想像力を発揮し、新たな時代に向けた社会変革を推進し、先導する人材の育成が重要であると捉え、既存の学域の知見を結集し、新たな学域学類を設置する構想に至ったのである。

本学類においては、社会の変容や科学の進展を的確に踏まえた上で、表出する複層的な諸課題に関し、人間科学・社会科学・自然科学等の多様な知見を活用しながらその解決に取り組むとともに、新たな「知」を社会へ展開する意欲と素養を身に付け、社会変革を先導する人材の養成を目的としている。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

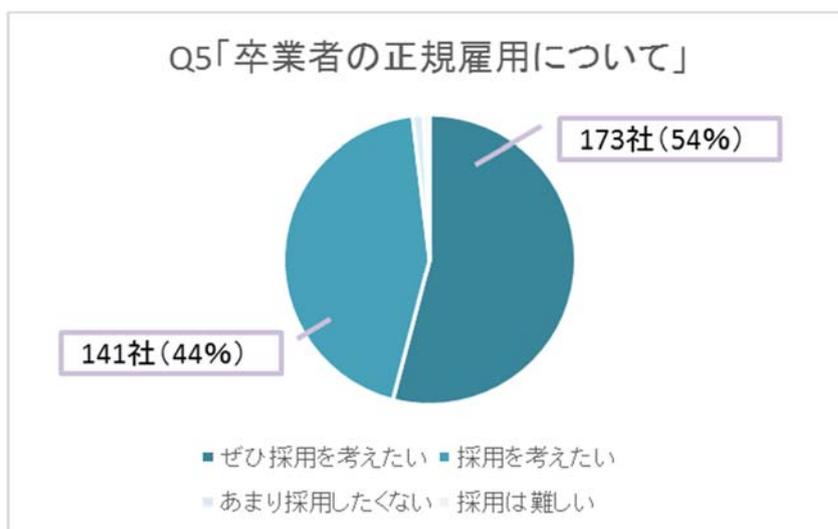
本学類における教育課程は、上述したとおりであるが、そうした人材の需要については産業界からも数多く提言がなされている。例えば一般社団法人日本経済団体連合会（以下「経団連」という）と国公私立大学のトップで構成される「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」の「中間とりまとめと共同提言（2019年4月）」においては、「Society5.0時代の課題の多くは、その解決に文理にまたがる知識や分析が必要になる」として文理融合教育を推進すると共に、「実践的な課題解決（Project Based Learning:PBL）型の教育が求められる」としており、本学類における教育は産業界にとっても非常に有用なものであると言える。

このほか、上述の企業向けのアンケートにおいて、自由記述により「本学で教育が必要と思われる分野やキーワード、求める人材像等」を質問したところ、今までどおり「専門性の高い人材の養成」に加え、「自ら手を挙げてキャリア挑戦」「正解のない問いの探究、多様性、主体性」「多角的な視点」「自律創造型人材」等、本学類の養成する人材像とも合致する回答も多く得ている。

さらに、本学類の卒業者に対して「ぜひ採用を考えたい」、「採用を考えたい」と回答した

企業も、回答のあった330社のうち、95%の320社にも昇っていることから、高い需要が見込まれており、本学類における教育が社会的な人材需要の動向を十分に踏まえた上で、その将来を見据えたものであると判断する。

図3



Q7：本学で「教育が必要」と思われる分野やキーワード、求める人材像等（自由記述）

自ら手を挙げてキャリア挑戦、自分で考える力、積極的・自発的・責任感・粘り強さ、多角的な視点、挑戦と自律、データサイエンス分野、挑む人材、グローバル人材、熱心に取り組みや切り、社会のしくみ、SDGsやAIなど今後の成長が期待される未開拓分野、変化の激しい時代に適応できるアダプタビリティ、これからの社会に必要なモノ・コト・サービス等、視野の広い人材、ロジカルシンキングの思考やAI・ビッグデータの活用、グローバルな視点、他者の受容、マルチな人材と専門軸、正解のない問いの探求、多様性、主体性、自然性、知識だけではなく行動に移せる、信頼・創造・挑戦、自ら挑戦する気持ち、創造していく力、論理的思考、自律的な人材、融合科学と専門領域の深堀、実際のビジネス経験・知識、キャリア教育、チャレンジする人材、実践的教育、変革マインドと強烈なリーダーシップ、主体性・適応力・広い視野、自律創造型人材 他

以上のアンケート調査結果により、本学類において養成する人材は、社会的、地域的な人材需要のニーズを的確に踏まえたものであると判断される。

資料目次

| | | |
|-------------|--|----|
| 資料 1 | 「金沢大学融合科学域（仮称）構想説明コーナーアンケート」 | 9 |
| | 調査方法：紙による配付調査 | |
| | 期 間：2019年8月 | |
| | 対 象：本学開催「キャンパスビジット」に参加した高校2年次の生徒 | |
| | | |
| 資料 2 | 「金沢大学の新学域構想のアンケート」 | 11 |
| | 調査方法：郵送調査 | |
| | 期 間：2019年2月～2019年3月 | |
| | 対 象：本学への志願者が多い全国の140校の高校1年次の生徒 | |
| | | |
| 資料 3 | 「金沢大学の新学域構想のアンケート」 | 12 |
| | 調査方法：郵送調査 | |
| | 期 間：2019年2月～2019年3月 | |
| | 対 象：求人・求職において本学と関連のある企業等370社（産業分類で42種） | |
| | | |
| 資料 4 | 「融合科学域設置に係るアンケート」 | 14 |
| | 調査方法：インターネット調査 | |
| | 期 間：2020年3月 | |
| | 対 象：本学類のWebサイト訪問者のうち、高校2年次、高専2年次及び社会人 | |

金沢大学融合科学域（仮称）構想説明コーナー アンケート

本日は、【金沢大学融合科学域（仮称）構想説明コーナー】にご参加いただき、ありがとうございます。
融合科学域（仮称）構想検討の参考とさせていただくため、以下のアンケートにご協力をお願いいたします。

Q 1 あなたが在学する学校名等（該当する番号一つに○をつけ、記入してください。）

- 1 学校名・学年 都道府県（ ）（ ）高校（ ）年
2 既卒 3 高校生等の家族

Q 2 融合科学域（仮称）構想説明コーナーに参加したことで、融合科学域（仮称）に関心を持ちましたか。（該当する番号一つに○をつけてください）

- 1 関心を持った 2 やや関心を持った 3 関心を持たなかった

Q 3 文系からも理系からも受験できる「文理不問入試」をどう思いますか？（該当する番号一つに○をつけてください）

- 1 非常に魅力を感じる 3 あまり魅力を感じない
2 魅力を感じる 4 その他（ ）

Q 4 金沢大学では、“社会変革を先導するリーダー”となる人材養成を目指し、インターンシップ実習やアントレプレナー演習で社会へ出掛ける機会が多い、文理を問わない新たな学域「融合科学域（仮称）」の令和3年度設置を構想しています。この新学域に魅力を感じますか。（該当する番号一つに○をつけてください）

- 1 非常に魅力を感じる 3 あまり魅力を感じない
2 魅力を感じる 4 その他（ ）

Q 5 新たな学域「融合科学域（仮称）」に進学したいと思いますか。（該当する番号一つに○をつけてください）

- 1 ぜひ進学したい 3 進学を考慮することはない
2 どちらかと言えば進学を考えたい 4 その他（ ）

Q 6 「授業にあったらいいな」と思う分野やキーワード、知りたいこと等を自由に記入してください。

▼回答は統計的に処理します。▼融合科学域（仮称）については、「構想（案）」であり、今後「変更もあり得る」ことを記します。

ご協力ありがとうございました。

融合科学域 [仮称] 構想説明コーナー 開催!

日時 令和元年 8 月 8 日 [木]
10:00 ~ 16:00
場所 中央図書館内 (ほん和かふえ。)

令和3 (2021) 年設置構想中



金沢大学は、令和3 (2021) 年4月に
新学域「融合科学域 (仮称)」の設置を構想しています。
「芯の通った文理融合の共創を通じた価値創出・融合を学び、
イノベーションの創成力を有する社会変革人材を養成する教育」を
構想中です。

金沢大学の新しい学域・教育の構想に触れてみませんか?
開催時間中、いつでも資料を見たり、自由に話を聞いたりできます。

申込
不要

出入
自由

文系でも
理系でも
参加OK



融合科学域 [仮称] 構想説明コーナー

短時間でも
お立ち寄りください!

理工学域 [数物除く] 会場からは
薬学類, 創薬科学類 会場からは
橋を二つ渡ります。
徒歩 10分程度。

人間社会学域 [国際除く]
会場からは
緩やかな坂をくだります。

国際学類 会場からは
左手に見える
建物です。

数物科学類 会場からは
橋を一つ渡ります。
徒歩 7分程度。

医学類, 保健学類
会場からは
無料シャトルバスで,
によらいじ
「如来寺前」乗車「金沢大学自然研前」降車。
「金沢大学自然研前」バス停から徒歩10分。

問い合わせ先
〒920-1192 石川県金沢市角間町
金沢大学 学生部学務課内

金沢大学融合科学域設置検討委員会
E-mail: new-gakuiki@adm.kanazawa-u.ac.jp
Tel: 076-264-5910 Fax: 076-234-4040

(注)
新学域は構想のための
計画が変更になること
があります。

金沢大学 融合科学域 先導学類 [仮称] 構想

令和3 (2021) 年設置構想中

文理融合の知識を基に、社会変革をリードする

入試

入学前の系統を問わない「文理不問入試」

| | | | | | |
|------|-----------------|-------------------------|-----------------|-----------------|------|
| 一般選抜 | 前期日程 | 文系傾斜 | 理系傾斜 | 文系一括 | 理系一括 |
| | | 文系/理系それぞれを重視 | | 大きくて入学、1年後に学類決定 | |
| 特別選抜 | KUGS特別入試 | 英語総合選抜 | 総合型選抜Ⅱ | | |
| | 高大接続重視 | 英語重視 | 自己推薦・共通テストあり | | |
| | 超然特別入試 | エーリンピアード A-lympiad選抜 | ちよっぜん 超然文学選抜 | | |
| | 金沢大学コンテスト入賞 | 日本数学A-lympiad | 超然文学賞 | | |
| | 社会人入試 <共通テストなし> | 特別学校推薦入試 <在外留学生> | | | |
| | 帰国子女入試 | 国際バカロレア入試 | 私費外国人留学生入試 | | |

養成する人材像

卒業後は...

社会の各界で殻を破って知見や制度を展開できる
イノベーターとして活躍

- 産業界での開発者・管理者
どんな業種や分野でも
- 新分野でのアントレプレナー
やってみようの気持ちで
- 国際機関でのグローバル要員
広い視野を持って
- 官公庁での制度設計要員 等
続けていける仕組みを作る

特色ある教育

柔軟に学ぼう!

■ 3つのコアプログラム → 多面的な融合力

- 先導プログラムⅠ「社会循環モデル創成」
社会変動等の複雑な事象や未来を
学修し、社会の知の循環を先導
- 先導プログラムⅡ「世界共創モデル創成」
グローバル化等の世界の事象や未来を
学修し、世界の知の共創を先導
- 先導プログラムⅢ「科学統合モデル創成」
科学技術等の先進の事象や未来を
学修し、科学の知の統合を先導

〔並行学修後、進(深)度に応じて選択〕

■ 3つの探求エリア → 確固たる実践力

- 探求エリアA「社会・財政制度設計分析」
全体最適な経済社会構造の発展に
必要な、最先端の専門知と実践力を獲得
- 探求エリアB「ビジネスクリエーション」
科学「-ズ」と世界「-ズ」の持続可能な接続に
必要な、最先端の専門知と実践力を獲得
- 探求エリアC「数理・データサイエンス」
多分野データ連携基盤の社会イノベーションに
必要な、最先端の専門知と実践力を獲得

〔多数の専門科目を全エリアを横断して履修〕

最新情報はWebをチェック!

融合科学域 先導学類 Webサイト
<http://innov.w3.kanazawa-u.ac.jp>



金沢大学入試情報アプリ



本書の内容はすべて「構想(案)」であり、
今後「変更もありうる」ことを特に記します。

◆学校へ提出してください◆

金沢大学の新学域構想のアンケート

【H31.2～3】

金沢大学は、広範な分野にわたる教養と文理融合の専門的知識を修め、どんな進路を選んでも活躍できる社会人を養成するため、平成33(2021)年4月に以下の新たな学域・学類の設置を構想しています。その初年度入学となる現在の高校1年次の皆さんのご意見を、この構想に活かしたいと思います。ぜひアンケートにご協力ください。

| | | |
|---|---|--|
| 創れる | 学生と創る 金沢大学の 新たな 学域・学類 融合科学域 先導学類 (仮称) | 成れる 自己の鍛錬を続けて人・科学・社会の変革を先導する意欲を持ち、 人文・社会・自然等の科学分野を往還し、融合的な学知と他者との共創を通じて、 各界で未踏のイノベーションの創成をリードする社会変革人材を養成 (1) 人文・社会・理工系等の多様な分野の知的貢献を融合して課題解決に展開できる人材 (2) 知・制度・財政等の多様なシステムの社会変容を統合して課題解決に展開できる人材 |
| | 入れる 入学前の系統を問わない、 文理不問入試を導入 ・文系傾斜型 ・理系傾斜型 ・文系一括型 ・理系一括型 ・英語総合型 ・AO型 ・留学生・社会人 | 学べる ■ 3つのコアプログラム→多面的な融合力 先導プログラムⅠ「社会循環モデル創成」 社会変動等の複雑な事象や未来を 先導プログラムⅡ「世界共創モデル創成」 グローバル化等の世界の事象や未来を 先導プログラムⅢ「科学統合モデル創成」 科学技術等の先進の事象や未来を [並行学修後、進(深)度に応じて選択] ■ 3つの探求エリア→確固たる実践力 探求エリアA「社会・財政制度設計分析」 全体最適な経済社会構造の発展へ 探求エリアB「ビジネスクリエーション」 科学シーズと世界ニーズの持続可能な接続へ 探求エリアC「数理・データサイエンス」 多分野データ連携基盤の社会イノベーションへ [多数の専門科目を全エリアを横断して履修] |
| 専門科目の例 イノベーション基礎、データサイエンス基礎、ファイナンス基礎、マーケティング基礎、テクノロジー基礎、デザイン基礎 演習、アントレプレナー基礎演習、シェアリング社会、世界の課題と未来技術、世界を変えた技術と材料、AIと未来社会、 科学メガトレンド、日本と世界の医療、データサイエンス実践、人工知能、経済指標と経済学基礎、予測と最適化、先導数 学基礎、数理統計学基礎、知的財産と国際特許、スタートアップ・マネジメント、アントレプレナー発展演習、異文化と キャリア開発、社会変動、アプリケーション、フィンテック、フィジカル・ブレイン接続、労働生産性、グローバル課題、 SDGs、ダイバーシティ促進、国際共助、流動と定着、エネルギー・環境、未来医科学、ナノ科学、IoT技術、食糧産出、海 外実践英語、時事・学術英語、海外実践留学、国際インターンシップ、融合モデル創成演習、融合システム統合演習、他 | 進める 社会の各界で殻を破って知見や制度を 展開できるイノベーターとして活躍 ・産業界での開発者・管理者 ・新分野でのアントレプレナー ・国際機関でのグローバル要員 ・官公庁での制度設計要員 等 初年度卒業者に 合せて大学院の 設置も構想中 | |

【現時点での進路希望先等は気にせず回答してください】

- Q1. 文系からも理系からも受験できる「文理不問入試」をどう思いますか？** 【回答↓】
1. 非常に魅力を感じる 2. 魅力を感じる 3. あまり魅力を感じない 4. 魅力を感じない
- Q2. コース制を採らず、文系・理系・中間系を自由に往来できる「融合科学」をどう思いますか？**
1. 非常に魅力を感じる 2. 魅力を感じる 3. あまり魅力を感じない 4. 魅力を感じない
- Q3. インターンシップ実習やアントレプレナー演習で社会へ出掛ける機会が多いことをどう思いますか？**
1. 非常に魅力を感じる 2. 魅力を感じる 3. あまり魅力を感じない 4. 魅力を感じない
- Q4. 上記のような特徴を持つ「新たな学域・学類(学部・学科)」に、魅力を感じますか？**
1. 非常に魅力を感じる 2. 魅力を感じる 3. あまり魅力を感じない 4. 魅力を感じない
- Q5. あなたが考える(又は進みたい)社会変革人材とはどのイメージに近いですか？** (2つまで)
1. 産業界(企業等)での開発者・設計者 3. 国際機関(や部門)でのグローバル要員 5. 学者・研究者
 2. 新分野でのアントレプレナー(起業家・創業者) 4. 官公庁での制度設計(企画)要員 6. わからない
- Q6. 「授業にあったらいい」と思う分野やキーワード、知りたいこと等を自由に記入してください。**

[回 | アンケート用紙サンプル | 答]

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。学校単位でご返送願います。

☆ 回答は統計的に処理します ☆ ★ 上記の内容は全て「構想(案)」であり、今後「変更もあり得る」ことを記します ★